

補導員会だより

館林市青少年センター補導員会 編集・発行



第31号
令和7年1月31日発行
館林市青少年センター
☎ 73-4114

回
覧

会長あいさつ

青少年の健全育成、非行防止等に日頃より地域の皆様には、ご理解とご協力を賜り補導活動が展開できることを深く感謝申し上げます。

市制施行70周年記念、令和6年度青少年健全育成4団体連携事業として、インターネット関連の講演会を11/2(土)文化会館小ホールにて開催しました。また、感染リスクの軽減を受け5年ぶりに列車内補導(9/27(金)16:00～館林駅⇄西小泉駅間)及び駅でのあいさつ運動、駅周辺の浄化運動を実施しました。参加者は館林警察署員2名、補導員12名、そして今回は企業との連携で東武鉄道様から2名の協力を得て実施しました。この活動を通して、大人が「見守っている」「関心を持っている」ということを青少年に感じてもらいたい、あいさつ運動や浄化運動は不審者への抑止力に大きな力を発揮することを市民の皆様方へ発信したいと思っております。



※裏面もご覧ください

今後も青少年健全育成団体と企業との連携を図り、青少年の健全育成に努めてまいります。

補導員会会長 岡村 光雄

子ども会大会



5月28日に館林城ゆめ広場にて「子ども会大会」が開催されました。補導員会では、群馬県セーフネット標語「おぜのかみさま」のリーフレット等の配布や、交通安全や不審者・誘拐注意の紙芝居・大型絵本を用意し啓発に努めました。また、館林警察署の御協力によりパトカーと白バイの展示及び試乗を行いました。大勢の子どもたちや保護者の方々が集まり大盛況となりました。

今後とも、子どもたちが明るく元気に過ごせるよう地域に根差した活動を続けていきたいと思っております。

会計 篠原 由美子

あいさつ運動

10月4日(金)に補導員6名で第一中学校へ下校時「あいさつ運動」と周辺の安全点検のため訪問させていただきました。

職員室へあいさつに行き、生徒の様子や学校周りの状況など、説明いただきました。その後、2班に分かれ、あいさつやライト点灯などの声かけをしました。

こちらから「さようなら」「気を付けて帰ってください」など声をかけると気持ちの良い返事が返ってきました。今後も下校時補導を行ってほしいと思っております。

理事 岡 由美子

ひとりで悩まずにまず相談
～子ども相談室～

	月	火	水	木	金	土	日
午前9時～正午	○	○	○	○	○	×	×
午後1時～午後5時	○	○	○	○	○	×	×

☎0276-73-4152

(下記の二次元コードからもお電話いただけます)

○土・日・祝日は行っておりません。

○対象：20歳未満の青少年並びに
その保護者等

○相談料：無料

館林市教育委員会 青少年センター



令和6年度 表彰者紹介

青木
正行
補導員



館林市政功労者表彰
(5月23日)

田沼
克則
補導員



館林市功労者表彰
「永年公職」
(11月12日)

田中
優子
補導員



館林市社会教育
功労者表彰
(11月27日)

原
章
補導員



群馬県青少年健全
育成功労者表彰
(11月30日)

列車内補導



コロナ感染症の影響などで見送られてきた列車内補導を9月27日、館林駅⇄西小泉駅区間を館林警察署員2名、館林駅長、同駅助役に参加協力をいただき実施しました。

列車内での高校生のマナーができていいるか観察しながら、下車する学生たちに声をかけると「ハイ」や「ありがとうございます」と元気な返事が返ってきました。大変良い印象を受けました。これまでの補導活動が実を結んでいると実感しました。その後、館林駅に戻り、駅構内で下校する学生たちにも声かけ活動を行いました。

子どもたちが安全安心に暮らせるよう、引き続き補導活動を続けていきたいと思ひます。 書記 原 章

視察研修

東毛地区を管轄する東部児童相談所を視察しました。令和2年に作られた新しい施設です。一時保護所も併設して、学習室や体育館もあり児童生徒が安心して過ごせるように運営されています。職員から、虐待の確証が無くても「疑い」があれば通告する事が虐待に苦しむ子ども、子育てに苦勞する保護者の支援につながる「きっかけ」になると教わりました。

帰りには、本中野駅隣にある就労支援施設で運営している「ブレッドランドホームゴーランド」さんに寄ってミミまで美味しい食パンを購入させていただきました。 理事 田沼 克則



編集後記

この「補導員会だより」の発行は、市民の皆さまに私達補導員が一年を通して行っている取り組みをご紹介できる貴重な機会と考えています。

行事への参加の他、特別補導と日々の巡回パトロールという地道な活動を支えているのは、補導員一人一人が「子ども達の安心・安全」という同じ志を持っているからこそということ、ここで伝えてできれば幸いです。

編集委員長 川島 英子